

# 横浜市感染症発生動向調査報告 1月

## 《今月のトピックス》

- インフルエンザ流行警報が発令されています。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が増加しています。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈1月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	6件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	1件
A型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
レジオネラ症	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	17件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5件	水痘(入院例に限る)	2件
急性脳炎	2件	梅毒	13件
クロイツフェルト・ヤコブ病	2件	百日咳*	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7件	麻しん	1件

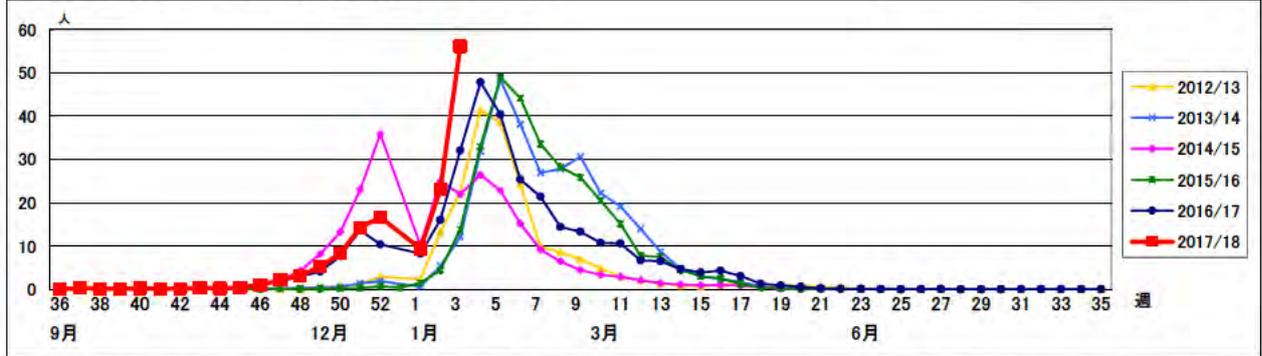
※平成30年1月1日から、百日咳が定点把握から全数把握の対象に変更されました。

- 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が1件、O26の報告が2件、O111の報告が1件、O不明の報告が2件ありました。うち、3件は無症状病原体保有者でした。
- A型肝炎: 経口感染(地域等不明)と推定される報告が1件ありました。
- レジオネラ症: 肺炎型の報告が1件ありました。感染経路等不明です。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 5件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 急性脳炎: 10歳未満の報告が2件(幼児1件、学童1件)ありました。病原体は、1件はHHV6またはHHV7疑いで、1件は不明です。
- クロイツフェルト・ヤコブ病: 古典型CJDの報告が2件ありました。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 7件の報告(A群5件、G群2件)があり、うち3件は創傷感染、4件は感染経路等不明でした。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 無症状病原体保有者(男性、同性間性的接触)の報告が1件ありました。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 80歳代の報告が1件ありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 幼児の報告が2件(ワクチン接種あり1件、不明1件)、40~50歳代の報告が4件(ワクチン接種歴なし3件、不明1件)、60歳代以上の報告が11件(ワクチン接種歴あり1件、なし3件、不明7件)でした。
- 水痘(入院例に限る): 10歳代と30歳代の臨床診断例の報告が1件ずつで、いずれもワクチン接種歴なしでした。
- 梅毒: 13件の報告(先天梅毒1件、無症状病原体保有者6件、早期顕症梅毒Ⅰ期4件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件)がありました。国内での感染が9件、感染地域等不明が4件で、男性8件、女性5件でした。感染経路は、母子感染1件、異性間性的接触が5件、同性間性的接触が1件、性別不詳の性的接触が4件、感染経路等不明が2件です。
- 百日咳: 国内での感染が推定される30歳代の報告が1件ありました。ワクチン接種歴は不明です。
- 麻しん: バングラデシュでの感染と推定される50歳代の修飾麻しんの報告が1件ありました。ワクチン接種歴ありです。

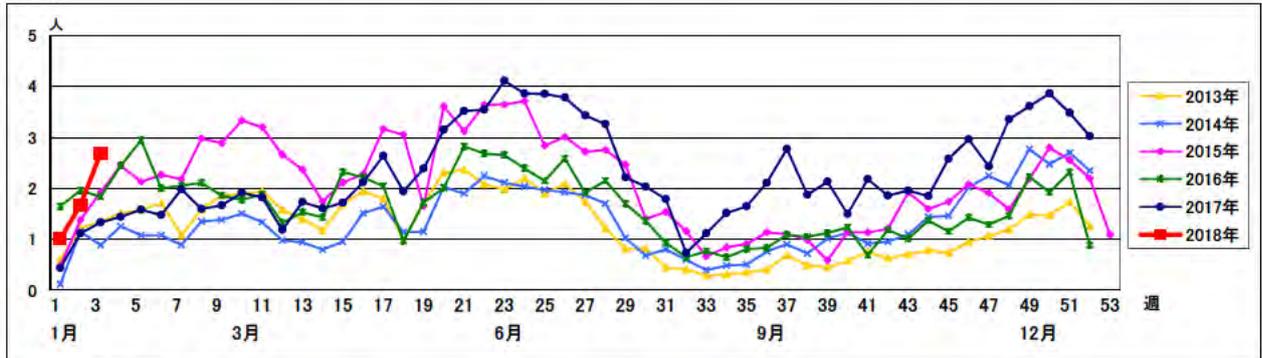
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第51週	12月18日～12月24日
第52週	12月25日～12月31日
第1週	1月1日～1月7日
第2週	1月8日～1月14日
第3週	1月15日～1月21日

1 インフルエンザ: 2017年第51週で14.19にて流行注意報発令、2018年第3週で56.09となり、警報発令基準値(30.00)を超えました。第3週の迅速キットによる報告では、A型33.1%、B型66.6%で、分離・培養ではAH1pdm、B山形系統が多く検出されています。



2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 2017年第45週頃より増加傾向となり、第3週で定点あたり2.69となっています。



3 性感染症(12月)

性器クラミジア感染症	男性:30件	女性:26件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:7件	女性:7件
尖圭コンジローマ	男性:7件	女性:2件	淋菌感染症	男性:12件	女性:4件

4 基幹定点週報

	第51週	第52週	第1週	第2週	第3週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	1.00	0.75	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.50	0.00	0.25

5 基幹定点月報(12月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件		—

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

1月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点49件、内科定点27件、眼科定点1件、基幹定点12件で、定点外医療機関からは5件でした。

2月7日現在、表に示した各種ウイルスの分離株63例と遺伝子10例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(1月)

分離・検出ウイルス	主な臨床症状	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ*1	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	その他
インフルエンザ AH1N1pdm09型		1	1	15			
インフルエンザ AH3N2型				11			
インフルエンザ B型山形系統			1	32 1			
アデノ 3型					1		
アデノ 型未同定			1				
パラインフルエンザ 2型		1					
ヒトコロナ*2			1				
ヒトメタニューモ			2				
コクサッキー B2型						1	
パレコ 3型							1
ノロ					2		
ロタ					1		
合計		2	2 4	58 1	4	1	1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

\*1:疑いを含む、\*2:HCov-229E or NL63、HCov-OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

## 〈細菌検査〉

### ☆1月から細菌担当の検査情報が新しくなりました！

「菌株同定」、「分離同定」、「小児科サーベイランス」の3つのカテゴリーに分け、それぞれ依頼元に分けました。また、累積報告数は算定しないことになりました。

1月の「菌株同定」は基幹定点依頼の腸管出血性大腸菌が3件、サルモネラ属菌が3件、劇症型溶血性レンサ球菌が1件、溶血性レンサ球菌が1件になっており、非定点依頼ではカルバペネム耐性腸内細菌科細菌が2件、非定型抗酸菌が1件、膿瘍由来の肺炎球菌が1件となり、保健所からの依頼は劇症型溶血性レンサ球菌が6件、腸管出血性大腸菌が3件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌が7件、侵襲性肺炎球菌が1件でした。「分離同定」の検査はありませんでした。「小児科サーベイランス」ではA群溶血性レンサ球菌が4件の検出でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(1月)

菌株同定	項目	検体数	血清型等
医療機関	基幹定点	腸管出血性大腸菌	3 O157:H7 VT1VT2
		サルモネラ属菌	3 <i>Salmonella</i> O4群 1件、 <i>Salmonella</i> O7群 2件
		劇症型溶血性レンサ球菌	1 B群溶血性レンサ球菌Ⅱ型
		溶血性レンサ球菌	1 B群溶血性レンサ球菌Ⅰa型
	非定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2 <i>Enterobacter aerogenes</i> 1件、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> 1件
		非定型抗酸菌	1 <i>Mycobacterium lentiflavum</i>
		肺炎球菌	1 <i>Streptococcus pneumoniae</i> 19A型
	保健所	劇症型溶血性レンサ球菌	6 A群溶血性レンサ球菌T1型 3件、T3型 1件、TB3264型 1件、G群溶血性レンサ球菌 1件
		腸管出血性大腸菌	3 O111:H19 VT1 1件、O26:H11 VT1 1件、OUT VT1 1件
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	7 <i>Enterobacter aerogenes</i> 5件、 <i>Enterobacter cloacae</i> 1件、 <i>Klebsiella oxytoca</i> 1件
侵襲性肺炎球菌		1 <i>Streptococcus pneumoniae</i> 15A型	
小児科サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等
小児科定点	A群溶血性レンサ球菌	4	T1型 1件、T25型 1件、TB3264型 2件

【 微生物検査研究課 細菌担当 】